



# く ん せ ん 薫 泉

学校の目標  
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。  
・よく考え、進んで学習する子ども  
・いつも元気で、しょうがな子ども  
・こころ豊かで、やさしい子ども

## 二期期の合い言葉は「深める二期期」です

校長 井上 光広

四十二日間の長い夏休みが終わりました。今年の夏も様々な楽しい思い出が子どもたちの心に残っていることを切に願う二期期のスタートです。

気を付けなくてはならない話題になりますが、統計上、二期期の始めは学校生活への適応に困難さを感じる子どもが最も出やすい時期となっております。学校では教職員がチームとなって、子どもたちの小さな変化を見逃さないように気を付けていきます。ご家庭でも、この九月はじめの二週間はお子様のつづやきや何気ない素振りに注目していただき、少しでも心配なことがあれば、どうぞ学校にもお知らせください。

季節は秋に向かいます。「〇〇の秋」とよく言われますが、「みんなのランキング」というWEBサイトを見てみますと、「〇〇の秋・二〇二二」という投票ランキングが報告されています。

- 一位 食欲の秋
- 二位 スポーツの秋
- 三位 芸術の秋
- 四位 読書の秋
- 五位 紅葉の秋
- 六位 旅行の秋
- 七位 睡眠の秋
- 八位 音楽の秋
- 九位 行楽の秋
- 十位 勉強の秋

学校の教員としては、勉強の秋がもっと上位ランキングになってほしいところですが、上位三つは誰もが気楽に楽しめるものですね。皆さんの〇〇の秋はいったい何でしょうか。校長としては、矢口小学校は「探究の秋」になっていくことを期待し

ています。

そこで二期期の合い言葉を「深める二期期」としました。学習を深めるために最も効果があることは、質問する力を高め、あらゆることに自問自答していく習慣を身に付けること、たとえば、低学年の児童であれば、実りの秋に矢口自然農園で青々と実った野菜を見て、「この野菜はどうしてこんなに大きく育ったのだろう。」と自問でき、「グリーンボランティアさんに意見を聞いてみよう。」と行動してみる。そして、「太陽の光がたくさんあたたかかったことや、土が乾きすぎないように、だれかが必ず水をあげていたからにちがいない。」と自分なりの答えを出してみる。こうした思考の繰り返しができるようになるだけで、私たちの問題解決能力は格段に進歩します。

大人から与えられた課題をこなす作業だけの、五十年も時代遅れの勉強方法(作業方法)を身に付けているだけでは、学ぶ楽しさすら感じられないでしょう。様々なことに興味関心を持ち、自ら疑問を起し、それを解決するために圧倒的な量の情報を得て、自分で判断する人には、歩いている時も、食事をしていても、買物をしている時も、生活のすべてが学びにつながります。

「深める二期期」とは、矢口小学校に関わるすべての方が、何かを探究し、何かを生み出していく、そんな日々にしていきたいと念願しています。

### 【お知らせ】

◎二期期より四年三組の担任を橋本教諭に、算数少人数の担当を芦田教諭に交替します。ご理解、御協力のもと、よろしくお願いいたします。

◎五・六年家庭科と三年図工・音楽を担当している田中教諭ですが、結婚され、姓が加納(かのう)に変わりました。二期期より加納姓でお呼びください。

## 落ち着いた生活をしよう

生活指導部

長い夏休みが終わりました。有意義に時間を使い充実した日々を送れたでしょうか。いよいよ二期期の始まりです。残暑という言葉があるように九月に入っても、夏のような暑さが続きます。油断をせずに熱中対策のためのこまめな水分補給などを続けてほしいと思います。

学校生活が始まり、家庭中心の生活から環境が変わったことで、気持ちが高ぶるか落ち着かない人もいるのではないのでしょうか。落ち着いた生活をするために、いつもと変わらない規則正しい生活を行うことが大切です。また、ゲームやYouTubeは気分転換になりますが、やりすぎたり見すぎたりすると、目や脳が疲れてしまったりイライラしてしまったりします。時間を決めて行うことも大切です。「早寝早起き」を基本に、徐々に規則正しい生活リズムを取り戻して、健やかな体と元気な心で落ち着いて学校生活を過ごせるようにしていきます。

## 「俳句教育」について

研究推進部

今年度本校では、芸術分野の教育として俳句作りに取り組んでいます。日本学校俳句研究会より講師の先生をお招きし、全学級で順次授業を行っております。俳句は日本の伝統的な言語文化であるだけでなく、発見する力、豊かな心を培うための絶好の学習材です。「俳句」と聞くと難しいように感じますが、五七五と短いためどの子にも取り組みやすく、一度にたくさん作品に触れることができます。また、句会を行うことで、友達の間で作った俳句のよさを見付けたり、自分の俳句のよさを友達に見付けてもらったりすることで、表現する楽しさを感じてほしいと思います。継続的な俳句づくりを通して、季語をはじめとして語彙を増やし、言語感覚を養い、自分の思いをのびのびと表現する力を伸ばしていきます。